



大野町立揖東中学校だより

令和8年9月30日 第6号

若き腕に望みあれ

学校教育目標 自立 友愛 気力

逆境に打ち勝つ、不屈の魂

～創立80周年記念行事(航空写真) R8.9.24 を終えて～

校長 木下 隆一

本校は昭和22年4月1日、揖斐郡川合村、鶯村、清水村、西郡村の4か村学校組合立揖東中学校として産声を上げました。最初は、各地区の小学校に分校としてスタートしています。

昭和24年3月、校舎建築中の事故により、3名の方が亡くなっています。これは中庭の「揖東魂」の石碑にも刻まれています。尊い犠牲の上にできあがった新校舎で、この年の8月より現在の地で勉学に励むことができるようになりました。

昭和23年には西郡村(西小校区)が、昭和36年には清水村(揖斐川町清水地区)が分離し、鶯村(中小校区)、川合村(南小校区)が「揖東中」の名を守って今日に至ります。

この「揖東」という名前、学校以外ではほぼ聞いたことがありません。「JA いび川揖東支店」が残っているくらいです。調べたところこの名称は、揖斐川流域の東側に広がる歴史的・水利的な地域区分「揖東」を背景に、戦後の中学校設置の際に用いられた、揖斐郡内の学校組合の名称に由来しています。今の大野町が合併してできるより前にあった名称です。同じような名称として、「揖東中」の他には「揖南中」がありました。こちらは現在、池田中学校となっています。「揖北」「揖西」は学校名として用いられた記録はなく、道路や用水に一部残っているだけです。学校組合の校区が解体されてもなお、この旧い名を残す学校は「揖東中」のみです。私は地図上に地名をもたない、歴史あるこの名前が大好きです。この名を、大規模校に負けないように轟かそうとしてきた先輩方の意気込みが詰まっているように思えるからです。

そんな本校は昭和45年、火災によって校舎を焼失しました。その時の様子が揖東中50年誌には次のように記されています。

「昭和45年1月18日午後5時40分頃、突如として起こった火災。業火の渦巻く学校、ものすごい物音とともに天を焦がす火勢、南舎は一瞬のうちに炎の中に包まれてしまった。運動場の片隅に立ちすくんだ生徒たちはあまりの恐ろしさに身を震わせ「学校が焼けてしまう」と泣き叫んだ。呆然とたたずむ卒業生たちは、自分たちが築き上げたすべてが崩れ去った感を深くした。…」

この打撃のあった本校は、このまま生徒を他校に移し、廃校になることも考えられていたそうです。しかし地域の粘り強い希望もあり、昭和45年12月25日には新館が竣工、翌年1月8日より使用を開始することができました。

逆境に負けない、不屈の「揖東魂」は、こんな歴史があったからこそ根付いた言葉だと思っています。

平成8年11月には、創立50周年の記念式典を挙行し、愛唱歌「揖東の友情」(作曲:小椋 佳)を披露しました。こちらは、コロナ禍以降、ずっと使用してこなかった大野町総合市民センター ふれあいホールでの合唱(揖東文化集会)を今年度復活させ、素晴らしい環境の中、全校で合奏する予定です。

歴史と伝統ある我らが揖東中学校。しかし令和13年以降に大野町の学校が統廃合されることが決まっています。少子化の中、学校がその機能を維持し、生徒一人一人に力を付けていくためには、学校の統廃合は避けて通れません。揖東中学校、この名前がなくなったとしても、魂は人に宿ります。このふるさとで、この学校で身に付けた「揖東魂」は、消えません。私たちは、伝統に息づく「揖東魂」を精一杯燃やして、大規模校にも負けない熱意と思いやりで、最後の最後まで心と身体を磨き、輝き続けましょう。

